

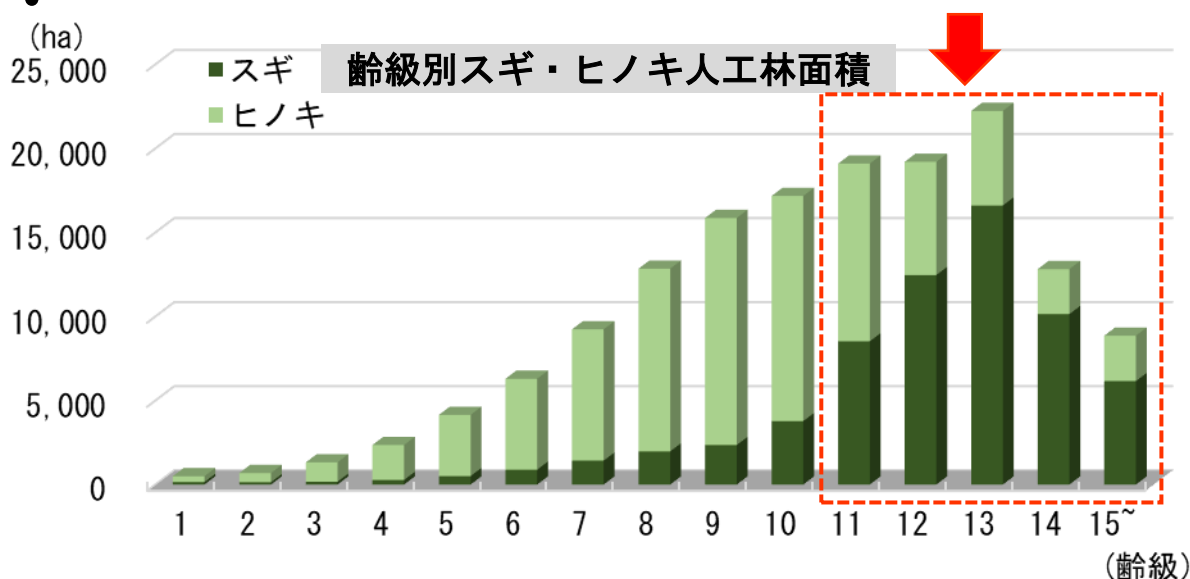
Ⅱ 山口県における森林・林業の現状と課題

1 森林資源の状況

【参考：令和4年度山口県森林・林業統計要覧】

- ◆ 森林面積 約 43.7 万 ha (県土面積の約 70%)
- ◆ うち民有林面積 約 42.5 万 ha (県土面積の約 70%、森林面積の約 90%以上)
- ◆ うち人工林面積 約 18.0 万 ha (県土面積の約 30%、民有林面積の約 40%)
- ◆ うちスギ・ヒノキ人工林 約 15.3 万 ha (県土面積の約 25%、人工林面積の約 85%)

❗ スギ・ヒノキ人工林の5割強が一般的な主伐期である11齢級以上



2 県内の木材需給の状況

【参考：やまぐち未来維新プラン】

- ◆ 県産木材供給量 (年間) 現状 30.1 万 m³ (2022 年度)
目標 41.8 万 m³ (2026 年度)

❗ 県内外の製材・合板工場、森林バイオマス発電施設等から旺盛な木材需要がある

3 素材生産費 (皆伐) の状況

※令和4年 樹種：スギ、運材費も含む

- ◆ 山口県の素材生産費 8,841 円/m³ (指数 106) 出典：山口県調べ
- ◆ 全国平均の素材生産費 8,326 円/m³ (指数 100) 出典：林野庁業務資料
- ◆ 九州平均の素材生産費 7,003 円/m³ (指数 84) 出典：林野庁業務資料

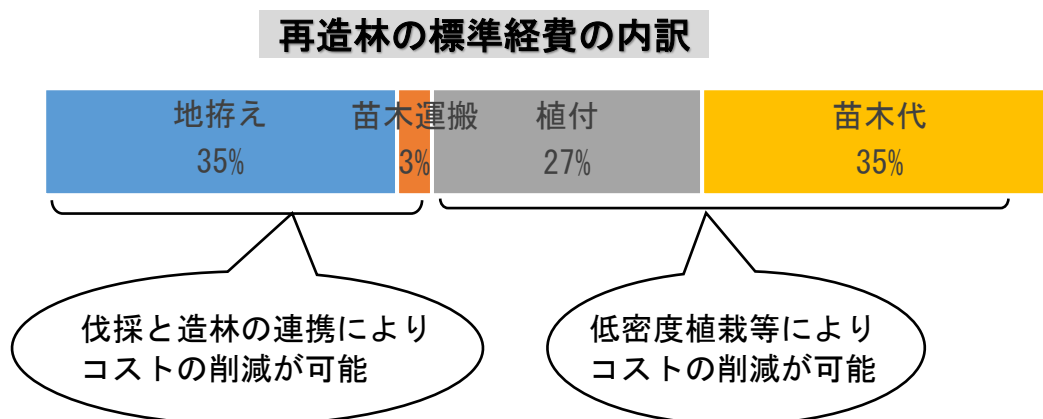
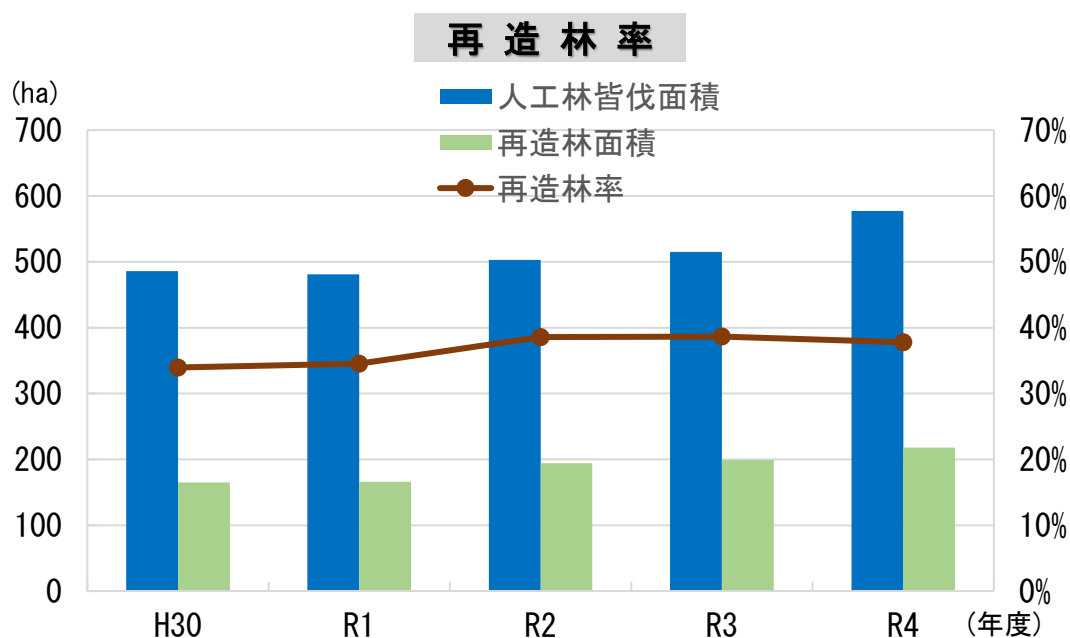
❗ 主伐コストが九州より2割以上高く、全国平均と比べても高い

4 主伐と再造林の状況

【参考：県森林企画課・県森林整備課調べ】

- ◆ 主伐面積：年間約 500ha 程度
- ◆ 再造林率：4 割弱
- ◆ 再造林経費：3 ～ 5 割程度は地拵え経費

- ❗ 再造林の経費のうち地拵え経費が多くを占める。
- ❗ 再造林率が低く造林未済地が増加。伐採跡地が放置され森林が更新されない場合は、森林の公益的機能の低下が危惧される。
- ❗ 再造林が進まない結果、将来は超高齢化林分が増加し、齢級構成が極めていびつな状況になり、持続的な林業経営が危惧される。



※造林補助事業標準単価 (R5. 10. 2 以降申請適用版)：スギ 2,500 本/ha

5 森林資源の循環利用のために求められること

山口県における現状・課題

- スギ・ヒノキ人工林の5割強が一般的な主伐期である11 齢級以上
- 旺盛な木材需要がある
- 主伐コストが九州より高く、全国平均と比べても高い
- 再造林の経費のうち地拵え経費が多くを占める
- 再造林率が低く造林未済地が増加
(森林の公益的機能の低下が危惧される)
- 再造林が進まないと齢級構成が極めていびつな状況になる
(持続的な林業経営に向けた齢級構成の平準化が必要)

森林資源の循環利用

- 主伐による木材供給力強化
- 主伐の低コスト化
- 再造林の低コスト化
 - ・ 伐採と造林の連携、連携の進め方
 - ・ 伐採と造林の一貫作業システム
 - ・ 低密度植栽やコンテナ苗の活用等
- 伐採と造林の連携等に関するガイドライン



以下、本手引きで紹介します。